

平成26年度広島グッドチャレンジ賞表彰式の開催結果について（報告）

～社会貢献活動に積極的に取り組んだ生徒、グループ、生徒会を表彰～

1 趣 旨 社会貢献の心をはぐくむボランティア活動等への生徒の積極的な参加を促し、活動への意欲を喚起するため、善いことを自ら進んで実践した生徒個人、グループ、生徒会を表彰する。

2 日 時 平成27年1月9日（金） 15時30分～16時45分

3 場 所 広島市役所本庁舎 2階 講堂

4 内 容 ① 表彰状授与
② 教育長あいさつ
③ 受賞者代表の言葉



広島グッドチャレンジ賞表彰式

5 対 象 広島市立中学校及び広島特別支援学校中学部の生徒個人、グループ及び生徒会

6 受賞者等の推移

年 度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
個人部門	6	17	6	14	19	15	14	25	29
グループ部門	4	4	1	22	27	33	44	62	85
生徒会部門	17	10	6	18	19	22	31	34	39
総 数	27	31	13	54	65	70	89	121	153
学校数	21	15	10	28	30	31	39	49	51

※ 名称：平成18年度～「さわやかボランティア賞」・平成23年度～「広島グッドチャレンジ賞」

7 活動例



「読み聞かせ」福祉支援活動



「壁画の製作」美化活動



「広島市土砂災害ボランティア」支援活動

- 【個人の部】
- ・職場体験学習で習った読み聞かせ活動を継続し、小学校や文化祭で披露した。
 - ・草刈り中に斜面を滑り落ち、身動きのとれない男性の救助活動をした。
- 【グループの部】
- ・社会福祉協議会の要請に応じて、地域の防災壁に壁画を制作し、設置した。
 - ・公民館祭りなど、地域の行事の企画・運営などに携わり、積極的に活動した。
- 【生徒会の部】
- ・広島市土砂災害へのボランティアへの参加や義援金募金を呼びかける活動をした。
 - ・アルミ缶やペットボトルのキャップなどを定期的に回収して、学区内の福祉施設へ車いすを寄付した。

8 報道実績 新聞記事：中国新聞社、読売新聞社、朝日新聞社
テレビ放映：広島テレビ

《参考》 受賞者代表の言葉（一部要約）

個人の部

私は、去年の6月、職場体験学習で佐伯区図書館湯来河野閲覧室に行きました。そこで、地域で読み聞かせ活動を行っている方に、読み聞かせの演出の工夫や本の選び方について指導していただき、練習をしていきました。

初めての読み聞かせは湯来南小学校で、自分の妹がいるクラスということもあり、とても緊張しました。しかし、じっと目をこらし、耳を澄まして聞いてくれていた小学生たちから拍手をもらった時、ほっとすると同時に、とてもうれしい気持ちになりました。それから何度か読み聞かせをしていくうちに、あまり緊張をしないようになり、自分に自信がついてきました。「楽しかった」「ありがとう」と言ってもらえることも多くなって、とてもやりがいを感じるようになりました。

職場体験が終わってからは、私の読み聞かせ活動の集大成となる11月の文化祭でのステージ発表に向けて、『注文の多い料理店』の練習に本格的に取り組みました。吹奏楽部の人たちにも協力してもらい、研究を重ね、たくさんの工夫ができました。

読み聞かせ活動を通じて、自分に自信がつき、たくさんの人と親しくなれ、いい経験ができたと思います。読み聞かせ活動を今後も続けていくとともに、経験し学んだことを、生かして頑張っていきたいと思います。また、地域の子どものために大切にされているこの活動を、ぜひ、後輩たちの手で継承して行ってほしいとも思っています。

広島市立砂谷中学校 新谷 桃花

グループの部

私たちは昨年春頃から本格的に壁画の活動に取り組んできました。その活動とは、井口駅の裏通りに飾るための壁画を描くというものです。壁画制作を始めた時、美術部にとって、木の板に絵を描くことや大きな筆で色を塗るといったことなどは初めてのことでした。

私たちは4枚の壁画を作成しましたが、一枚の壁画は6枚の板をつなぎ合わせてできているため、それぞれの絵が綺麗につながるように配慮することが大きな課題となりました。

しかし、この活動を通して、全体の技術の向上や、美術部としての役割が、それぞれ分かったのではないかと思います。

私たちが作成した壁画は、これまでに飾られていた壁画と同じように何年も残るでしょう。これをきっかけに井口の街が少しでも活気づいてくれればと思います。地域に貢献できたことを本当にうれしく思います。そしてこれからも地域のために貢献できるよう、美術部一丸となって日々成長していきたいと思います。本日はありがとうございました。

広島市立井口中学校美術部 眞鍋 梨緒

生徒会の部

僕たち城山北中学校生徒会は、本校の伝統として定着している「花いっぱい運動」に加えて、本年度は、土砂災害復旧ボランティアや募金活動に取り組んできました。

まず、「花いっぱい運動」は、10月頃に、2日間に分けて「土づくり」と「苗の植え付け」を行う活動で、毎回、約150名の参加者が、協力して校内を花や緑でいっぱいにする取組を継続しています。

そして、今年、僕たちの地域をおそった8月20日の土砂災害。僕たち生徒会でも、地域ボランティア隊を募り、土砂で埋まった畑などの復旧作業に参加しました。また、災害の約1ヶ月後、生徒会執行部のメンバーがアストラムライン中筋駅前で、災害義援金のための募金活動をしました。本当に多くの方々募金に協力して下さり、1時間で約4万円もの募金が集まりました。募金活動は、僕たちが地域の皆さんのためにということで行いましたが、募金をしてくださった方々から「大変だけど頑張ってるね」「一緒に頑張っていこうね」など、たくさんの温かいお言葉をかけていただき、逆に僕たちが励まされました。それと同時に、たくさんの方が僕たちの復興を応援してくださっていると改めて実感しました。土砂災害が起きて、4ヶ月と少しが経ちました。地域の復興はまだ、完全には終わっていません。城山北中学校の新たな生徒会執行部を中心に、今後も地域のためにできることを行っていきます。

城山北中学校生徒会は、これからも校内の伝統を引き継ぎ、地域のための貢献活動を行い、また、地域の方々に助けられながら、一つ一つの取組を工夫し、学校と地域の関係をより深いものにしていきたいと思います。

広島市立城山北中学校生徒会 山下 航平

被災地支援ありがとう

市など陸自や中学生表彰

昨年8月に広島市で起きた土砂災害で、県と同市は9日、救助活動を行った陸上自衛隊第13旅団に感謝状を贈った。同市教委も復旧に向けたボランティアに取り組みなどした中学生を表彰した。

《参考》 新聞記事

海田町の海田市駐屯地では、行方不明者の捜索活動や避難所の支援を行った陸上自衛隊第13旅団の掛川寿一旅団長に、湯崎知事と松井一実市長から感謝状が手渡された。掛川団長は「二次災害を避けながら、活動半ばで下山してくる隊員はつらい思いだったが、地域の人々の『ありがとう』という言葉に励まされた。がれきはなくなっても生活再建はこれからと感じている」と話した。



尾形教育長から表彰状を受け取る城山北中3年の山下君（広島市役所で）

災害発生直後に県の要請を受け、23日間で同団から延べ1万8205人が重機を使った捜索やがれき除去などを行った。広島市役所では、市教委が清掃活動など地域社会に貢献した中学生に贈る「広島グッドチャレンジ賞」

の表彰式を開催。対象となった51校153の個人・団体のうち、今回は被災地でのボランティア活動や義援金を集めた学校も多く、安佐南区の市立城山北中学生会も受賞した。

生徒会役員9人と保護者、教員らは、被害の大きかった八木地区の畑でスコップなどを使って土砂の撤去作業に参加。9月末にはアストラムライン中筋駅前で放課後に募金活動を行い、日赤県支部に約4万円を送った。

生徒会長を務めていた山下航平君(15)は「変わり果てた町の姿に悲しみましたが、街頭募金で『頑張ってるね』『一緒に頑張ろう』と声を掛けられ、励まされた。復興はまだまだで、後輩に活動を続けてほしい」と話した。

尾形完治教育長は「被災した人が一日も早く元気に出して元の生活に戻れるよう、自分たちで考えてくれた仲間が多かった」と生徒たちをたたえた。

(平成27年1月10日(土) 読売新聞)

城山北中の生徒会表彰

市教委「広島グッドチャレンジ賞」



尾形教育長から表彰状を受け取る山下君

昨年8月の広島市の土砂災害で大きな被害に遭った、安佐南区八木地区にある城山北中の生徒会が9日、市教委の「広島グッドチャレンジ賞」を受けた。土砂撤去のボランティアや募金活動が評価された。

同校では、3年生の女子生徒1人が亡くなり、自宅が被災した生徒もいた。生徒会執行部の11人は「地域のために何かできないか」と考え、9月7日に八木9丁目の農地で、流れ込んだ土砂を土のうに詰めて撤去。同30日にはアストラムライン

中筋駅前、義援金を募り、3万8213円を日本赤十字社県支部へ届けた。

市役所講堂であった表彰式で、当時の生徒会長で3年山下航平君(15)が尾形完治教育長から表彰状を受け取った。山下君は「地域の復興はまだ。新たな生徒会執行部を中心にできることを続けてほしい」と話した。

市教委は、生徒たちの社会貢献を促そうと2011年度に同賞を創設。14年度は29人、85団体、39生徒会に贈った。(菊本 孟)

(平成27年1月10日(土) 中国新聞)